

東都生協
環境・サステナビリティ報告書
2024



2024年6月、SDGsのターゲットのうち「順調に推移している」のは17%にとどまるとの国連報告がありました。達成期限である2030年まであと6年ですが、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻・ガザ紛争が妨げになっているようです。また、世界気象機関は、2024年は、世界の年間平均気温が産業革命前の水準を1.5度以上上回る最初の年になったと報告しています。これまでで最も暑い10年は、全て直近の10年間に集中しており、気候変動の加速が浮き彫りになっています。国内の農業においても、異常な高温や干ばつにより、農作物被害が多発、生産量が大きく減少するなど生産活動への影響が深刻化しています。一部の野菜や果物がかつてない高値となるなど、私たちの暮らしを直撃しています。



さて、2024年度の事業活動を振り返りますと、新草加要冷セットセンターと旧施設の同時稼働に伴い電力使用量が増加し、CO₂排出量の削減では2030年目標から2年連続で後退してしまいました。一方、新要冷セットセンターでは、自然冷媒の冷凍庫・凍結庫の導入をはじめ、太陽光発電と蓄電池、省エネ機器の設置により電力使用の削減に向けて前進することができました。CO₂排出量の40%を占める車両燃料の対策についても、現在、EV車両の試験導入に向けた準備を進めています。3R活動、エシカル消費の推進は停滞気味であり、組合員との目標の共有をはじめ、取り組みや進捗を可視化して共有するなどの具体策が必要です。

日本生協連では、国連や政府目標、流通小売業での意欲的な取り組み事例を鑑みて「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を改訂し、「2030年度のCO₂排出量を2013年度比で50%削減」「生協事業のサプライチェーン全体から生ずる温室効果ガス排出量の算定を進め、将来的には2℃を十分下回る水準で目標設定を目指す」としています。他には、生産から消費に至るサプライチェーンを通して、省資源や生物多様性の保全に留意しつつ、人権尊重・労働安全といった社会的側面に配慮した幅広い取り組みとして「責任ある調達」を進めることなどを目標として加えています。このように、私たちの事業における社会的な責任はますます厳しくなっています。

本報告書では、2024年度の取り組みの詳細をご報告します。引き続き、毎年度の到達点を公開して、第三者による監査や意見を踏まえ、取り組みを発展させていく計画です。皆さまの忌憚のないご意見を承りたく存じますとともに、今後ともお力添えのほど、お願い申し上げます。

2025年4月
環境管理推進本部
本部長 風間与司治

—目次— CONTENTS

・東都生協の2030持続可能な環境・ 社会の実現に向けた政策	2	・省資源・資源循環の取り組み	10
・温室効果ガス(CO ₂)削減	3	・組合員とともに進めた3R活動	11
・エシカル消費	6	・環境保全活動	13
		・2024年度環境監査報告	14

東都生協の 2030 持続可能な環境・社会の実現に向けた政策

「東都生協の 2030 持続可能な環境・社会の実現に向けた政策」は、これまで東都生協が進めてきた「環境方針」と「SDGs に対する基本方針」を基底に持続可能な環境・社会の実現に向けた 2030 年までに目指す目標と行動計画を明示する政策です。

本政策は、気候変動対策、エシカル消費、省資源・資源循環、生物多様性、環境保全活動を重点項目とした、6 項目の行動指針と 17 の目標によって構成され、持続可能な地球環境と、誰ひとり置き去りにしない社会の実現に向け、組合員、ステークホルダーとともに取り組みを進めています。

■ 行動指針

- (1) 地球温暖化を防止するために、脱炭素社会の実現に向けて温室効果ガス排出削減に取り組みます。
- (2) 日本の農畜水産業の未来を創造し、食と農の持続可能性の向上に貢献します。
- (3) 持続可能な生産と消費を推進するために、環境や人、社会に配慮した商品・サービスを提供します。
- (4) 生産と消費、食べ物の大切さを学び、食品廃棄物・食品ロス、資材の削減を進めます。
- (5) 持続可能な生産と消費への共感を広げて、限りある資源を大切にします。
- (6) 組合員と生産者・取引先、職員と共に環境保全活動を推進し、持続可能な地球環境を目指します。

■ 2030 年目標

1. 2013 年度を基準年として電気、ガス、車両燃料の CO₂ 排出量を 40% 削減します。
2. 生産と流通、包材など、環境保全に配慮した国産商品を拡大しています。
3. 生態系と生物多様性、環境の保全に配慮した農畜水産業が維持・発展しています。
4. 栽培区分「東都みのり」は農産物の供給高および利用人数の構成比で 20% 以上にします。
5. 米の利用人数は 2018 年度実績より 105% 以上伸長させます。
6. 牛乳・卵は国産飼料 100% にします。
7. ケージ飼い卵と平飼い卵の利用人数を逆転させます。
8. 植樹活動などを通じて水産資源を守り、水産業の健全な発展と水産物の安定供給が確保されています。
9. 環境配慮の加工食品・家庭用品を拡大して、環境や人と社会に配慮した品揃えを充実します。
10. 事業と活動ならびに組合員の家庭から生じる食品廃棄・食品ロスを最小化します。
11. わたしのこだわり商品の容器や包装は、石油由来プラスチック不使用 100% にします。
12. リユースびんの回収率は利用本数対比 80% 以上にします。
13. 卵パック（A-PET）の回収率は利用点数対比 90% 以上にします。
14. ポリ袋の回収率は使用量比 80% 以上にします。
15. 牛乳紙パックの回収率は供給重量比 100% 以上にします。
16. 商品案内の古紙回収率を 100% にします。
17. 環境保全や自然保護などの活動の場と参加する人々の輪を広げます。



温室効果ガス（CO₂）削減



私たちは、2030年までに事業活動により排出する温室効果ガスを、2013年度比で40%削減することを2021年9月に策定した「東都生協の2030環境・サステナビリティ政策」を通じて宣言しました。昨年度末までの実績は、基準年（2013年）の排出量6,803トンに対して、5,657トン（基準年比：16.9%削減）です。

40%削減目標の達成に向け2024年度も積極的な取り組みを進めました。

温室効果ガス（CO₂）削減

目標1

2013年度を基準年として電気、ガス、車両燃料のCO₂排出量を40%削減します。

2013年（基準年）

6,803トン



2030年

4,081トン

省エネ機器の導入、電力の低炭素化、配送コースの効率化により、電力、車両燃料の使用量を抑制し、CO₂排出量の削減を進めます。

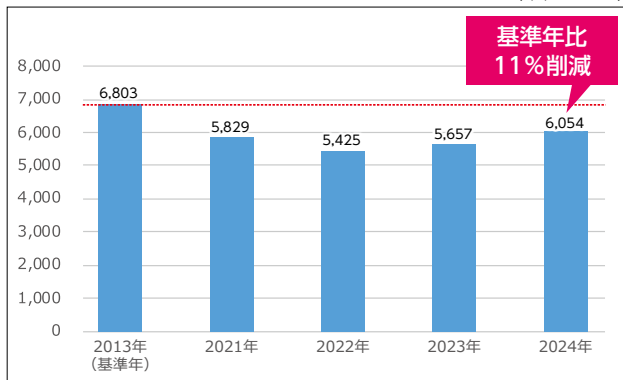
1. CO₂ 排出量

☑ 2024年度の結果

CO₂排出量は、6,054トン（前年比107.0%）でした。基準年（2013年度）に対する削減率は11.0%です。エネルギー種別でのCO₂排出割合は、電力が60%、車両燃料が40%、ガスは1%未満でした。

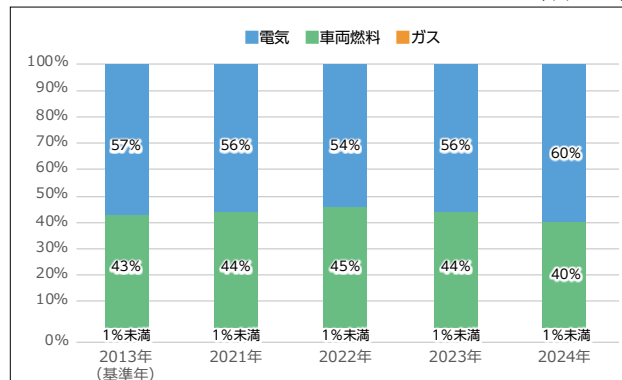
図表1：CO₂排出量の推移

（単位：トン）



図表2：CO₂排出量の割合

（単位：%）



☑ 主な取り組み

■ 自然冷媒機器の導入

従来の冷媒（フロン類）は、地球温暖化やオゾン層の破壊に大きな影響を与える可能性があります。自然冷媒（CO₂ など）を使用したノンフロン冷凍機はこれを使用せず、環境負荷を軽減します。

2024年度は、草加要冷セットセンターにノンフロン冷凍庫・凍結庫を導入しました。杉並センターでの試験導入を経て2台目の導入になります。今後も主要冷凍冷蔵設備（物量の1/3以上が通過する施設）のうち、新規導入する機器の100%を自然冷媒機器に切り換えます。



草加要冷セットセンターに導入したノンフロン冷凍機。機器を冷却する散水機には工業用水を使用しています。

図表 3：冷凍冷蔵機の冷媒別機器台数の推移 (単位：台)

冷媒ガスの種別	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
HCFC (特定フロン)※	5	5	5	5
HFC (代替フロン)※	69	69	65	87
自然冷媒 (CO ₂)※	3	3	3	28
合計	77	77	73	120

※ HCFC (ハイドロクロロフルオロカーボン)：オゾン層への影響が少ないですが、長期的な使用は段階的に廃止されています。

※ HFC (ハイドロフルオロカーボン)：オゾン層破壊の影響はありませんが、地球温暖化係数 (GWP) が高い冷媒ガスです。

※ 自然冷媒：環境への影響が少ない冷媒の一種で、主に自然界に存在する物質を使用しています。



杉並センター ノンフロン冷凍機

2. 電気使用量

☑ 2024 年度の結果

- ・ 電力使用量は 7,875 千 kWh (前年度比 108.9%) でした。
- ・ 事業所種別の使用量は、配送センター：2,473 千 kWh (前年度比 98.9%)、本部：358 千 kWh (前年度比 97.4%)、物流センター：5,044 千 kWh (前年度比 115.6%) になりました。
- ・ 2024 年度は新物流センターの開設により、複数の施設が同時に稼働していたため、電力消費量が昨年と比べて増加しました。

☑ 主な取り組み

■ 自動照明設備 (草加要冷セットセンター)

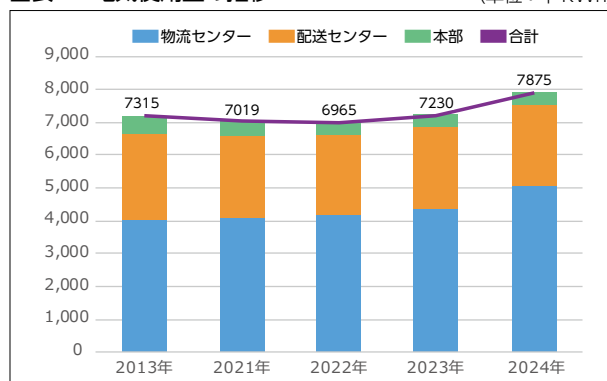
人感センサーで人がいない場所は自動で消灯します。

■ 省エネ診断

一般財団法人 省エネルギーセンターによる省エネ最適化診断を町田センターで実施しました。以下の改善提案に基づき、対応を進めました。

- ・ 空調室外機のフィン清掃
- ・ 照明の消灯 (倉庫軒下の水銀灯)
- ・ 省エネ型自販機への更新
- ・ 照明器具を LED 器具に更新
- ・ 温水洗浄便座の節電モードスイッチ活用
- ・ 室外機への日射遮蔽による空調電力の削減

図表 4：電気使用量の推移 (単位：千 kWh)



草加要冷セットセンター 自動照明



町田センター 室外機

3. 再生可能エネルギーの開発と普及

☑ 2024 年度の結果

草加要冷セットセンターに太陽光発電及び蓄電池を導入しました。

設置した太陽光発電及び蓄電池は、クールネット東京 (東京都地球温暖化防止活動推進センター) による地産地消型再エネ増強プロジェクトの助成を受けて設置しました。このプロジェクトの趣旨に沿って、再生可能エネルギー発電設備で得られた環境価値を証券化し、都内にある東都生活協同組合の施設 (配送センターや本部事務所など) において利用していきます。



草加要冷セットセンター

<草加要冷セットセンターに設置した太陽光発電設備の概要>

太陽光発電施設 発電容量：254kw

年間予想発電量：411,260kWh 蓄電池施設 蓄電容量：30kWh

なお、蓄電池はBPC対応として震災等による停電時において事務所棟の一部において活用することを目的としています。

<太陽光発電設備の設置数>

設置数は4ヵ所（国立センター、和光センター、八潮物流センター、草加物流センター）です。八潮物流センターを除く事業所の年間発電量は442,975kWhでした。太陽光発電設備を設置した事業所で消費した電力の約10%に該当します。

図表5：太陽光発電設備の発電量

(単位：kWh)

事業所	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
国立センター	25,519	11,050	25,442	30,316	27,843
和光センター	0	0	0	0	30,203
草加要冷セットセンター	0	0	0	0	384,929
合 計	25,519	11,050	25,442	30,316	442,975



上空から見た草加要冷セットセンターの太陽光発電パネル



和光センター屋上の太陽光発電パネル

4. 車両燃料

☑ 2024年度の結果

燃料使用量は1,012 kℓ（前年度比97.8%）でした。

燃料種別の使用量は、ガソリン：508 kℓ（前年比103.9%）、軽油※：460 kℓ（前年比96.8%）、LPG：44 kℓ（62.5%）です。

※軽油は物流車両を含みます。

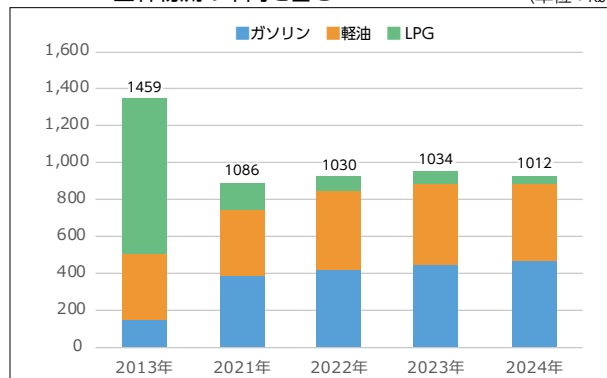
図表7：車両台数の推移 ※基幹物流の車両を含まない (単位：台)

種別	2013年	2021年	2022年	2023年	2024年
ガソリン	185	356	376	367	378
軽油	19	132	128	117	117
LPG	363	62	41	37	31
CNG	1	0	0	0	0
合 計	568	550	545	521	526

図表6：燃料使用量の推移

※基幹物流の車両を含む

(単位：kℓ)



☑ 次世代車両の導入

EV車は走行時にCO₂を排出しないため、環境負荷の低減が期待できます。また、エネルギー効率が良く、経済性に優れ、音も静かといった特長があり気候変動対策の推進における重要な指標としています。2024年度は、車種の選定、充電設備や車両の仕様等に関する調整を進めました。2025年度中の納車を予定しています。



関係者でEV車を試乗しました

～東都生協が考える「エシカル消費」～

エシカル消費とは、環境や社会貢献などに配慮する倫理的な消費のことで、商品を選ぶ際に、社会的課題の解決につながる商品を積極的に選ぶ消費スタイルです。エシカル消費は、「人や社会に配慮した消費」、「環境に配慮した消費」、「地域に配慮した消費」などが挙げられます。

東都生協の商品は、設立時から組合員のエシカル消費行動を促すものです。代表的な商品としては、共同作業所と連携した「ねり状米ぬかせっけんセモラ」や「リユースびん」商品、将来の農業者づくりを支援する「農業高校生の応援りレー米」、環境負荷の小さな持続可能な産直農産物や自給飼料で育てる北里八雲牛、牛乳パックの回収と「東都もーもーティッシュ」、枝幸漁協と進める植樹運動と「魚つきの森」商品、産地支援募金付の「高原夏摘みトマトジュース(トマト倶楽部)」など、多くのエシカル商品があります。最近では熱帯雨林を守るレインフォレストアライアンス認証商品や、持続可能な漁業と海の環境を守る MCS 認証商品、ASC 認証商品などの取り扱いを増やしています。



- 上記の考えに基づき、多くのエシカル商品の中から、以下の 10 カテゴリー商品をモニタリング指標商品として取りまとめました。2024 年度の利用状況は以下の通りです。

図表 8：エシカル商品の利用状況

区分	商品カテゴリー	2023 年度		2024 年度		前年比	
		品目数	供給高 (千円)	品目数	供給高 (千円)	品目数	供給高
プライベートブランド	わたしのこだわり商品	206	2,388,015	204	2,333,654	99.0%	97.7%
農畜産物の商品 ブランド	東都みのり農産物	2,506	1,482,333	2,735	2,009,987	109.1%	135.6%
	北里八雲牛	26	64,515	25	52,883	96.2%	82.0%
	放牧豚	22	38,677	23	37,602	104.5%	97.2%
商品ブランド	東都ナチュラル商品(農産物を除く)	204	245,195	208	232,364	101.9%	94.7%
	魚つきの森	62	212,854	63	202,669	101.6%	95.2%
認証ラベル付き商品	海の認証品 (MSC、ASC、MEL)	19	136,920	20	165,652	105.2%	120.9%
寄付金付き商品	東都もーもーシリーズ	4	136,678	4	137,255	100.0%	100.4%
環境と福祉の両者に 資する商品	リユースびん商品	30	425,489	28	416,595	93.3%	97.9%
	セモラ	1	7,405	1	6,826	100.0%	92.2%
合 計		3,080	5,138,081	3,311	5,595,487	107.5%	108.9%

目標 2

生産と流通、包材など、環境保全に配慮した国産商品を拡大しています。

☑ 2024 年度の結果

- ・「米の精^{*}」を活用して育てた農産物の供給高は、野菜が 8,692 万円（前年比：103.5%）、果物は 1,153 万円（前年比：167.1%）でした。
- ・農事組合法人茨城県西産直センターで米の精を使用した「しいたけ」の栽培を開始しました。
- ・農事組合法人房総食料センターで米の精を使用した「黄味メロン」の栽培を開始しました。

※米の精：BG 無洗米に加工する際に取り除かれた肌ヌカ（とぎ汁の元）を有効利用しやすい粒状にしたあと、加熱処理をした 100% 米由来の有機質土壌改良材。お米には「米の精」の商品名はつけておりません（コメ丸マークのみ）



米の精

図表 9：米の精を活用した商品の普及状況

年度	2023 年度 (万円)	2024 年度 (万円)	前年比
野菜	8,401	8,692	103.5%
果物	690	1,153	167.1%
合 計	9,091	9,845	108.3%

目標 3

生態系と生物多様性、環境の保全に配慮した農畜水産業が維持・発展しています。

☑ 2024 年度の結果

持続可能な農畜水産業に関する情報発信（食を通じて環境と社会に貢献）を、商品カタログ Sanbonsugi 紙面で行いました。

＜畜産部門＞「めぐみ米豚」「千葉のこめ豚」「八千代牛」「太陽チキン」「秋川牧園の若鶏」の国産飼料用米や米の精を活用した飼料自給率向上・資源循環による持続可能な畜産の取り組みを Sanbonsugi 紙面を通じて発信しました。

＜家庭用品部門＞牛乳パックの回収を通じた再生紙リサイクルの促進と廃棄物削減の取り組みを、『もーもー募金報告』として Sanbonsugi 紙面を通じて発信しました。

図表 10：持続可能な農畜水産業の特集記事一覧

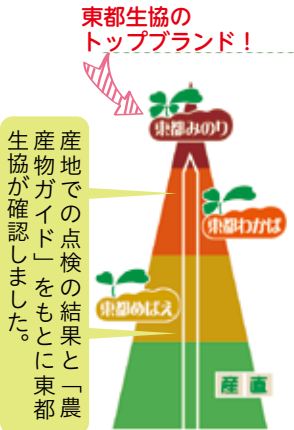
掲載した企画回	商品名	掲載内容
4月3回・10月4回・11月4回・1月4回	北海道しほろ牛	牛の排泄物を堆肥化し、農地に還元する循環型農業の取り組み
5月2回	塩で食べるわら焼き戻りかつおたたき	MEL 認証マーク商品
6月2回	アイガモロボ応援米（登録米）	アイガモロボの募金の取り組み
8月2回	東都北海道枝幸産ほたて貝柱	魚つきの森「植樹活動について」
4月2回・5月2回・8月3回・9月4回・11月3回・12月2回・12月4回・1月5回・2月1回	千葉のこめ豚・めぐみ米豚	国産資源の飼料用米を飼料に活用した飼料自給率向上と持続可能な畜産の取り組み
5月4回・7月2回・9月3回・10月5回	めぐみ米豚・八千代牛・太陽チキン	飼料に国産資源の「米の精」を活用した飼料自給率向上と資源循環型畜産の取り組み
10月2回	東都高原朝摘みトマトジュース・東都トマトケチャップ	トマト倶楽部『トマト「愛果」収穫支援について』
11月2回	フィッシュスティック	MSC 認証マーク商品
11月2回	未来につなぐみかんの木	サポーター募集、産地応援企画
11月3回	アイガモロボ応援米（登録米）	アイガモロボの応援米の取り組み
1月5回 2月1回	アラスカ産紅鮭切身（厚切り） 子持ちからふとししゃも（特大）	MSC 認証マーク商品 MSC 認証商品

目標 4

栽培区分「東都みのり」は農産物の供給高および利用人数の構成比で 20% 以上にします。

☑ 2024 年度の結果

- ・栽培区分「東都みのり」の供給高は 8 億 3,990 万円（前年比 112.1%）部門全体における構成比は 12% でした。
- ・全国的な高温や線状降水帯の影響で各産地、収穫量に余力が無く、ECO マルの取り組みは実施できませんでした。各産地と産地状況を確認しながら今後も余剰となる青果物の引き取りを進めていきます。



図表 11：東都みのり商品の部門別供給高における構成比

部門	2023 年度			2024 年度		
	東都みのり（千円）	部門全体（千円）	構成比	東都みのり（千円）	部門全体（千円）	構成比
野菜	465,198	3,451,855	13.4%	502,504	3,397,469	14.7%
果物	226,529	1,881,075	12.0%	261,812	1,872,469	13.9%
米	57,389	1,219,020	4.7%	75,588	1,731,142	4.3%
全 体	749,116	6,551,950	11.4%	839,906	7,001,080	12.0%

目標5💡

米の利用人数は 2018 年度実績より 105% 以上伸長させます。

☑ 2024 年度の結果

2024 年度は、米の利用人数を 2018 年度比 100% にすることを目標としました。結果は基準年（2018 年度）の利用人数 747,518 人に対し 769,283 人（基準年比 102.9%）と伸長し、2024 年度目標をクリアすることができました。2024 年は、米不足に伴う、価格高騰の影響により多くのご注文をいただきました。引き続き安定供給に向け、2025 年産米の調達に取り組みます。



アイガモロボ

図表 12：米の利用人数・供給点数の推移

項目 / 年度	2018 年 (基準年)	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
利用点数（千点）	847,205	832,505	932,410	890,803	809,349	743,846	812,854
利用人数（人）	747,518	737,332	835,430	801,318	731,754	673,180	769,283
基準年比（%）	—	98.6%	111.8%	107.2%	97.9%	90.1%	102.9%

目標6💡

牛乳・卵は国産飼料 100% にします。

☑ 2024 年度の結果

図表 13：国産飼料の配合率の推移

品目	国産飼料配合率	2023 年	2024 年
平飼い やさしい ひたち野 穂の香卵	65%	85%	85%



①牛乳

有限会社須黒食品の豆腐製造時の副産物おからを、千葉北部酪農農業協同組合に飼料原料として供給する取り組みを開始しました。

②たまご

飼料用米の価格高騰や手配困難な状況で、飼料用米を自家栽培している千葉北部酪農農業協同組合より、株式会社小幡畜産（平飼い やさしい ひたち野 穂の香卵 の産地）へ 50 トンの飼料用米を供給しました。



目標7💡

ケージ飼いたまごと平飼いたまごの利用人数を逆転させます。

☑ 2024 年度の結果

ケージ飼いたまごの利用人数（2,146,224 人）に対して、平飼いたまごは（350,206 人）でした。

図表 14：ケージ飼い・平飼いたまごの利用人数の推移

項目	2023 年（人）	2024 年（人）
ケージ飼いたまごの利用人数	2,247,170	2,146,224
平飼いたまごの利用人数	365,674	350,206
ケージ飼いたまごの利用人数における平飼いたまごの割合	16.3%	16.3%



目標8

植樹活動などを通じて水産資源を守り、水産業の健全な発展と水産物の安定供給が確保されています。

☑ 2024 年度の結果

5月2回に MEL 認証マーク付き商品「わら焼き戻りかつおタタキ（たれ付）」「塩で食べるわら焼き戻りかつおたたき」の利用普及を行いました。9月4回に枝幸魚つきの森※商品を、商品案内の表紙で取り上げました。

図表 15：主な認証マーク付き商品

認証制度	2023 年度		2024 年度	
	アイテム数	主な商品名	アイテム数	主な商品名
MSC 認証	15	アラスカ産紅鮭切り身	9	フィッシュスティック（のり塩風味）
ASC 認証	2	刺身・サラダ用サーモン厚切りスライス	2	刺身・サラダ用サーモン厚切りスライス
MEL 認証	9	紀ノ國しらす干し	10	塩で食べるわら焼き戻りかつおたたき（南方かつお）

- ・ MSC 認証：環境に配慮し、適切に管理された漁業で獲られた水産物に与えられる認証制度です。
- ・ ASC 認証：環境保護や社会的責任を重視した養殖場に与えられる認証制度です。
- ・ MEL 認証：日本発の水産エコラベル認証制度です。

● **枝幸「魚つきの森」植樹協議会**は、東都生活協同組合・枝幸漁業協同組合・北海道漁業協同組合連合会の三者が協定を結び、地球環境と生命の源である川と海を守り、漁場・資源管理型漁業により生産される水産物を利用し、豊かな食生活を推進することを目的に設立しました。

2024 年度は、10 月 13 日（日）～ 14 日（月・祝）に枝幸「魚つきの森」植樹協議会 主催による枝幸「魚つきの森 植樹体験と枝幸の自然満喫・交流！」を開催しました。



植樹の様子
環境保護の大切さを実感しました。



枝幸漁業協同組合と参加者の皆さん



目標9

環境配慮の加工食品・家庭用品を拡大して、環境や人と社会に配慮した品揃えを充実します。

☑ 2024 年度の結果

環境配慮型パッケージ商品の開発と普及を進めました。2024 年度の結果は以下の通りです。

図表 16：環境配慮商品（加工食品）

商品名	環境配慮の特長
CO・OP 北海道のブルーベリー	包材は植物由来プラスチック原料 12% 使用
ノンカップ麺こめ粉らーめん醤油味 78g（めん 65g）× 4	カップなしでゴミ削減が期待できる“環境にやさしいノンカップ麺シリーズ”に、新たに麺に「こめ粉」を使用した塩味に続き、「醤油味」を導入しました。
北海道産小豆使用 京ぜんざい	利用が見込め、かつフードマイレージが少なくなるメーカー直送の宅配商品を新規導入しました。
お湯を注ぐだけ 稲庭うどん （比内地鶏スープ付）	利用が見込め、かつフードマイレージが少なくなるメーカー直送の宅配商品を新規導入しました。
骨まで食べられる焼き魚	利用が見込め、かつフードマイレージが少なくなるメーカー直送の宅配商品を新規導入しました。

図表 17：環境配慮商品（家庭用品）

商品名	環境配慮の特長
ネピアネピecoキッチンタオル	包装にビニールではなく紙・バイオマスインキを採用。キッチンタオルの原料には適切に管理された森の木でつくられた「FSC 認証紙」を使用。
耐熱ラップECO 30cm × 50m	燃やしても塩素系ガスやダイオキシンが発生しない「非塩素系素材」を使用。
とうもろこし生まれ水切りゴミネット 深型	とうもろこしを原料にした非石油系合成繊維です。生分解性繊維（ポリ乳酸繊維）使用。
asunowa 手提げ袋乳白色	植物由来原料のバイオマスプラスチックを使用した手提げ袋です。

省資源・資源循環の取り組み



東都生協では、事業と活動ならびに組合員の家庭から生じる食品廃棄・食品ロスの最小化、3R 活動、プラスチック製容器包装の使用削減に向けた 2030 年目標を掲げています。

目標 10

事業と活動ならびに組合員の家庭から生じる食品廃棄・食品ロスを最小化します。

☑ 2024 年度の結果

＜事業活動での取り組み＞

① 青果残さ

物流センターから排出される青果残さは、食品廃棄物を用いたバイオガス発電の原料として有効利用しています。

また、発生抑制に向け、生ごみ処理機による減量を検討しました。

② 廃棄シッパー

汚れや破損により使用できなくなった使用済シッパー（発泡スチロール製保冷箱）を溶融して再生プラスチックの原料にリサイクルしています。



草加要冷蔵センターに設置した使用済発泡スチロールの溶融機

＜組合員の家庭から生じる食品ロスを減らす取り組み＞

① ローリングストックなどのキャンペーン

年 4 回の防災食品特集を実施し、今年度防災食品の新商品として「パン職人が作ったやわらか～いパンイチゴ味」の企画を 6 月から開始しました。また「エコワン防災食あたたかセット」「エコワン洋風防災食あたたかセット」から、食品のみをセットした新規格商品「エコワン和風防災食おかず 6 種セット」、「エコワン洋風防災食おかず 6 種セット」を 9 月から企画しました。



② フードパントリー・フードバンク

19 団体と連携した供給時のフードドライブに取り組んでいます。

青果残品（予備野菜）は、拡大サンプルや、生活困窮者支援（2024 年度はのべ 458,502 団体へ約 6,9307,590 kg 提供）に利用しています。なお、上記を経た残品は、食品廃棄物を原料としたバイオガス発電に利用しています。

- ・ 2025 年度は新たに 1 団体とフードドライブの取り組みで連携する予定です。
- ・ 予備野菜の提供は継続して取り組みます。



FB 狛江とのフードドライブ

目標 11

わたしのこだわり商品の容器や包装は、石油由来プラスチック不使用 100% にします。

☑ 2024 年度の結果

2024 年度は、以下 2 アイテムの包材を環境配慮型に切り替えました。これにより、全アイテム中 19% の切り替えが完了となります。品質保持上の理由等により、包材変更ができない商品や切り替え対象外（缶やびんなど）の商品は 96 アイテム（全アイテムの 45%）になります。また、NB（ナショナル・ブランド）商品もメーカーの協力を得て積極的にプラスチックの減量化を進めています。

「わたしのこだわり」商品については「環境に配慮した包材」への変更の可否が確定していない商品について、確認を進めています。また「環境に配慮した包材」については技術革新により対応可能な内容物が増えていきますので、一度変更不可となっている商品についても包材の材質の進化によって対応が可能になった場合には、改めて取引先と協議を行います。

図表 18：PB 商品の包材変更 商品リスト

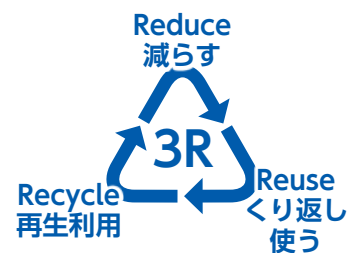
商品名	変更内容
東都秋鮭の便利カット（皮とり）	2024 年 4 月からバイオマスインキ使用包材へ変更しました。
東都あじと 3 種の野菜のマリネ	2024 年 7 月から従来よりもプラスチック量を減らした包材へ変更しました。

組合員とともに進めた 3R 活動



毎日の生活の中で、ごみの発生をなるべく減らす（リデュース）、できるだけ繰り返し使い続ける（リユース）、そして、繰り返し使えないものは、かたちを変えて再生利用する（リサイクル）。

東都生協では、この 3 つの活動を推進し、限りある資源を大切に有効に使う資源循環型社会を目指しています。大切な資源を有効利用するためにご協力をお願いします。



目標 12

リユースびんの回収率は利用本数対比 80% 以上にします。

☑ 2024 年度の結果

図表 19：リユースびんの回収実績

(単位：本)

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
供給本数	385,216	338,783	330,588	311,932
回収本数	249,560	259,720	241,320	211,460
回収率	64.8%	76.7%	73.0%	67.8%

900ml 720ml 500ml 360ml



73.3% (67.8%) 71.2% (78.6%) 68.0% (84.3%) 63.2% (70.4%)

目標 13

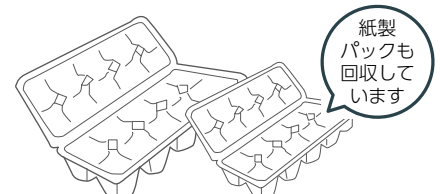
卵パック（A-PET）の回収率は利用点数対比 90% 以上にします。

☑ 2024 年度の結果

図表 20：たまごパックの回収実績

(単位：kg)

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
配付重量	53,799	56,587	53,104	49,577
回収重量	28,538	46,780	42,946	41,120
回収率	53.0%	82.7%	80.9%	82.9%



目標 14

ポリ袋の回収率は使用量比 80%以上にします。

☑ 2024 年度の結果

図表 21：ポリ袋の回収実績

(単位：kg)

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
配付重量	121,044	136,400	131,881	115,114
回収重量	24,375	27,100	28,880	31,615
回収率	20.1%	19.9%	21.9%	27.5%



パンの袋



冷凍品・冷蔵品
・青果品



商品案内
個別セット袋

* 今年度より商品案内個別セット袋を含む配付・回収重量による実績に変更しました。

目標 15

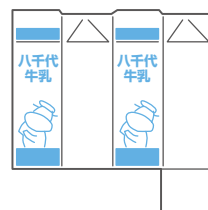
牛乳紙パックの回収率は供給重量比 100%以上にします。

☑ 2024 年度の結果

図表 22：牛乳パック 回収率の推移

(単位：kg)

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
供給重量	81,783	81,327	75,978	68,654
回収重量	73,910	70,675	69,590	63,930
回収率	90.4%	86.9%	91.6%	93.1%



目標 16

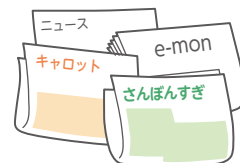
商品案内の古紙回収率を 100%にします。

☑ 2024 年度の結果

図表 23：商品案内 回収率の推移

(単位：kg)

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
配付重量	4,784,594	4,648,243	4,336,378	3,918,134
回収重量	3,346,955	2,956,770	2,749,110	3,007,660
回収率	70.0%	63.6%	63.4%	76.8%



●容器包装リサイクル法における再商品化委託料の費用負担について

再商品化委託料は特定事業者（ここでは東都生協）が容器包装リサイクル法に基づいて支払うリサイクル費用のことです。委託料の単価は、容器や包装の材質や種類（プラスチック、紙、ガラスなど）によって毎年変動し年度ごとに算出されます。

2024 年度は、561 万円のリサイクル費用を負担。種類別での内訳は、プラスチック：86 トン（547 万円）、ガラスびん：10 トン（11 万）紙：1 トン（2 万円）でした。

リサイクル費用の負担は、事業者の義務ですが、使用した容器包装を自主的に回収することで、再商品化義務量を削減し、委託料の負担を軽減する仕組みがあります。東都生協はこの仕組みに基づき、回収率を向上させることでリサイクル費用の負担を減らす取り組みを進めています。

2024 年度はリユース・リサイクル活動を通じて 102 トンの容器包装を自主回収しました。

これにより 129 万円の委託料を減額することができました！

図表 24：自主回収により軽減できた再商品化委託料

(単位：円)

種類	自主回収による減額	支払金額
ガラスびん	229,759	115,193
プラスチック	1,062,785	5,472,117
紙	0	23,298
合 計	1,292,544	5,610,608



パンの袋



冷凍品・冷蔵品
・青果品



商品案内
個別セット袋

ポリ袋回収
により 106
万円の負担
軽減



900ml 720ml 500ml 360ml

リユースびん
の回収により
22 万円の負
担軽減

リユース・リサイクル活動で 129 万円の負担軽減

目標 17

環境保全や自然保護などの活動の場と参加する人々の輪を広げます。

- ☑身の周りの空気の汚れを測る NO₂ 測定に取り組みました。

参加人数は、6 月：157 人、12 月は 158 人でした。

2024 年 12 月測定の結果は、東都生協ホームページ MOGMOG 3 & 4 月号 11 ページをご覧ください。

東都生協ホームページ URL

<https://www.tohto-coop.or.jp/mogmog/wordpress/wp-content/uploads/2025/02/mogmog20250304.pdf>



- ☑政府に第 7 次エネルギー基本計画（案）に対する意見を提出しました。要旨は以下の内容です。

- ・原子力発電と核燃料サイクルからの速やかな撤退を求めます。
 - ・脱炭素化に遅れが生じないように、2040 年の再生可能エネルギーの割合を 90%以上とし、化石燃料発電への依存を減らすことを求めます。
 - ・2035 年の温室効果ガス削減目標を 66%以上、2040 年の目標を 77%削減（2013 年比）とすることを求めます。
 - ・石炭火力は 2030 年までに廃止すべきです。
 - ・家庭の省エネや省エネルギー型社会の移行につながる施策の強化を求めます。
- 政策立案プロセスの透明化と公平性の担保、多様な関係者が参画できる機会を求めます。



東都生協「第 7 次エネルギー基本計画（案）に対する意見」全文（PDF）はこちら

https://www.tohto-coop.or.jp/news/upload_pdf/a42cefa853499e145a6a38f70ddf8e0f50c55acc.pdf

2024 年度 環境監査報告

2025 年 4 月 4 日

環境監査委員長 東京農工大学農学部 元准教授 佐藤敬一
環境監査委員 東京農工大学農学部 講師 大倉茂
組合員理事 小林真理、吉岡泰子、脇素子

2024 年度の東都生協環境監査委員会は、環境監査規程に則り、1 月 30 日、3 月 3 日、3 月 31 日の 3 回開催し、東都生協の 2024 年度の事業活動および組合員活動の報告を受け、環境・サステナビリティ管理規定に即して活動しているかを評価しました。

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を踏まえて作成した「東都生協の 2030 持続可能な環境・社会の実現に向けた政策」の「行動指針」と具体的な「2030 年目標 17 の目標」に向かって、東都生協として活動していることを評価します。この取り組みは、東都生協の活動と国連の定めた 17 の目標と 169 のターゲットを単に紐付けたものではなく、2030 年の理想とする組合員の姿とその生活を支える東都生協の理想的なビジョンを想定して、作り上げた行動指針と目標（アジェンダ）であることを組合員や生協職員に広く伝えて、東都生協全体で目標に向かって協力して活動してください。また、サステナブルな社会構築を目指す組織体として、多様性を尊重し、ハラスメントや差別を認めない、法令を順守し、東都生協として受け入れを認めたルールやステークホルダーとの合意事項を順守する姿勢も重要です。

地球温暖化対策として、CO₂ 排出量の削減に向けて引き続き努力してください。新たに開設した草加要冷蔵センターにおける、自然冷媒の冷蔵庫・凍結庫の導入、室外機の水噴霧、人感センサーでの消灯などの省エネ対策を評価します。効果的な結果が出たら各物流センターに導入してください。試験的な EV 配送車の導入の方針を評価します。航続距離等の問題で大規模な導入は難しい現状ですが、今後の技術革新も考えられますので、引き続き検討を続けてください。

エシカル消費は「環境や社会貢献などに配慮する倫理的な消費である」としてはいますが、広い意味では東都生協が扱う全商品がエシカル商品に当てはまると考えられ、そのように事業展開を行なってください。また、ここで特に「エシカル商品」として列挙するならば、東都生協らしい、独自の「エシカル商品」の明白な意味を定義して、組合員に周知してください。

アニマル・ウェルフェア (動物福祉) の観点からケージ飼いではなく平飼い飼育での卵が望ましく、ヨーロッパのようにケージ飼いが禁止される流れが予想されます。産地との交流・見学会を催し、組合員への周知とともに生産・供給体制の拡張を推進してください。また、牛乳・卵の生産の飼料を 100% 国産にする目標は大変望ましく、試行の取り組みを評価します。より推進してください。

容器包装については、PB 商品の食品トレー不使用の方針を支持します。引き続き、石油系プラスチックの削減、紙・バイオプラスチックなどの生物由来資源への転換などを検討してください。ポリ袋の回収率は 2030 年の目標の 80% に対して 27.4% と未だ低い状態です。再資源化につながり、ごみの減量化と委託料の負担金削減のために組合員に周知し、協力して取り組んでください。リユースびんの利用と回収は環境のためであり、また、リサイクル洗びんセンターの福祉支援になることを啓発してください。

東都生協の 環境・サステナビリティ 活動のあゆみ



2024 年度 環境・サステナビリティ報告書

【発行】 2025 年 5 月
【報告対象範囲】 全事業所
【対象期間】 2024 年 4 月～ 2025 年 3 月
【連絡先】 東都生活協同組合 環境管理推進本部
〒168-0073
東京都杉並区下高井戸 5-4-42
さんばんすぎセンター
電話：03-3329-3609 FAX：03-3329-3617

※本書の内容は、東都生協のホームページでもご覧いただけます。

「2024 年度 環境・サステナビリティ報告書」をお読みいただきありがとうございました。

本報告書の内容ならびに東都生協の環境保全活動に対する皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。
次回報告書を作成する際の参考とさせていただきます。

こちらから



[URL] <https://ws.formzu.net/dist/S16945422/>